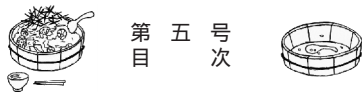


本のちらし

2007年9月号



第五号
目次

- ・本屋探訪 第五回 ... 1ページ
- ・目黒考二の町田仕事場潜入ルポ ... 2~4ページ

製作：本の雑誌助っ人一同

本屋探訪

005

私は、幼稚園の頃から近所のおじいさんに「こんな小さな子が本を読めるのか？」と驚かれるほど本が好きでした。小学校にあがってから、毎日図書室に立ち寄り、少なくとも一冊は借りてました。家に帰るま

で我慢できないので、帰りに道に本を広げ、電柱を避けて、歩きながら本を読んでいた。そんな風に私が本好きになったのは、おそらく両親がしょっちゅう本屋さんに連れて行ってくれたからだと思います。私は本屋さんに入るとすぐ児童書コーナーに向かい、本棚をじっとにらみつけました。気になる本があればパラパラ読み、何度読み返しても夢中になれるような本を探しました。両親はいろんな本屋さんに連れて行ってくれましたが、その中で私が一番好きだったのは、青山に店を構える児童書専門店・クレヨンハウスでした。お店の入口には、赤青黄のカラーの椅子と拗ねた顔をしたマスケットキャラクターが

描かれた看板が置いてありました。そしてお店に入ると、他のお店では見たことのない本が、たくさん置いてあるではないですか。私は夢中になって本棚に手を伸ばしました。そして、私が見た前に、両親は私の欲しい本を察してくれ、買ってくれました。そんな素敵なクレヨンハウスは、作家の落合恵子さんが設立されたお店です。本だけでなく、二階には玩具、三階には女性の本や化粧品を揃えています。お勧めしたいのは地下一階のレストラン。お昼には有機栽培野菜だけで作った和食のバイキングをしており、その美味しい事といったら！今も通い続けている大好きな本屋さんです。
(助っ人 橋山 恵都)

かしいじゃない。ねえ。スウェットで歩いてましたよとか首にタオル巻いていましたよとか言われちゃうと。そつですわ(笑)。普段の生活はどのような感じですか？

目 あまり歩かないです。仕事場と自宅を往復するのと、後は駅前のコンビニに新聞を買いに行くぐらいかな。駅前まではそれなりに行くけど、町田まではあまり出ないね。

そつですか。ところで、本棚を見た感じでは笹塚よりも本が多いようですが。目 いや、この部屋はそれ以前から借りてたんです。ここ、隣の二部屋を書庫の代わりにしていたんですわ、十年ほど前から。それまではここに来るのは一年に一日二日ぐらいだった

んだけど。そつだったんですか。目 うん。それで二年前に自宅を引っ越すときに、引っ越すつたつて同じ町内なんだけど、自宅にもう本を置いてあげて言われたの。しょうがないからこの部屋の本を売ったんです。二万冊位あったのを全部。二万冊もですか。目 そつ。その話は前にも書いたけど、それで今回移つて来た時に二部屋とも風呂場があったのを潰して書庫にしたんですよ。(案内してくれながら)こつちの部屋は前からミステリが置いてあって、ここがそつ。僕の計算ではこれではばらくは保つはず。そつですか。いま仕事場にされているこの部屋の本は？

目 ここにあるのは新刊です。例えばこの辺の本は今週読んでる本。今十三冊目を読んでますね。この本棚の本は、何か順序を決めて並べてらっしゃるんですか？

目 いや、特に決めてないです。自分の本だからわかるけど、他の人にとつてはただ雑然と並んでるだけですよ。向こうのミステリの部屋は全集ごととか叢書でとかポケミスはここにというように整理しているんだけど、こつちに移ってきてからまだ本棚の整理をしてないですね。いずれしなきゃと思ってるんだけど。その時はぜひお手伝いさせて下さい。ありがとうございます。7月20日、目黒さん仕事場にて)

天野慧の なかなか。

虹を

追いかける男

佐川光晴
(双葉文庫)



ハンプナイっすよ!

『エロマンガ島の三人

長嶋有異色作品集』

長嶋 有

(エンターブレイン)

なかなか。

次回の本のちらしは

2007年11月号に

封入の予定です。